

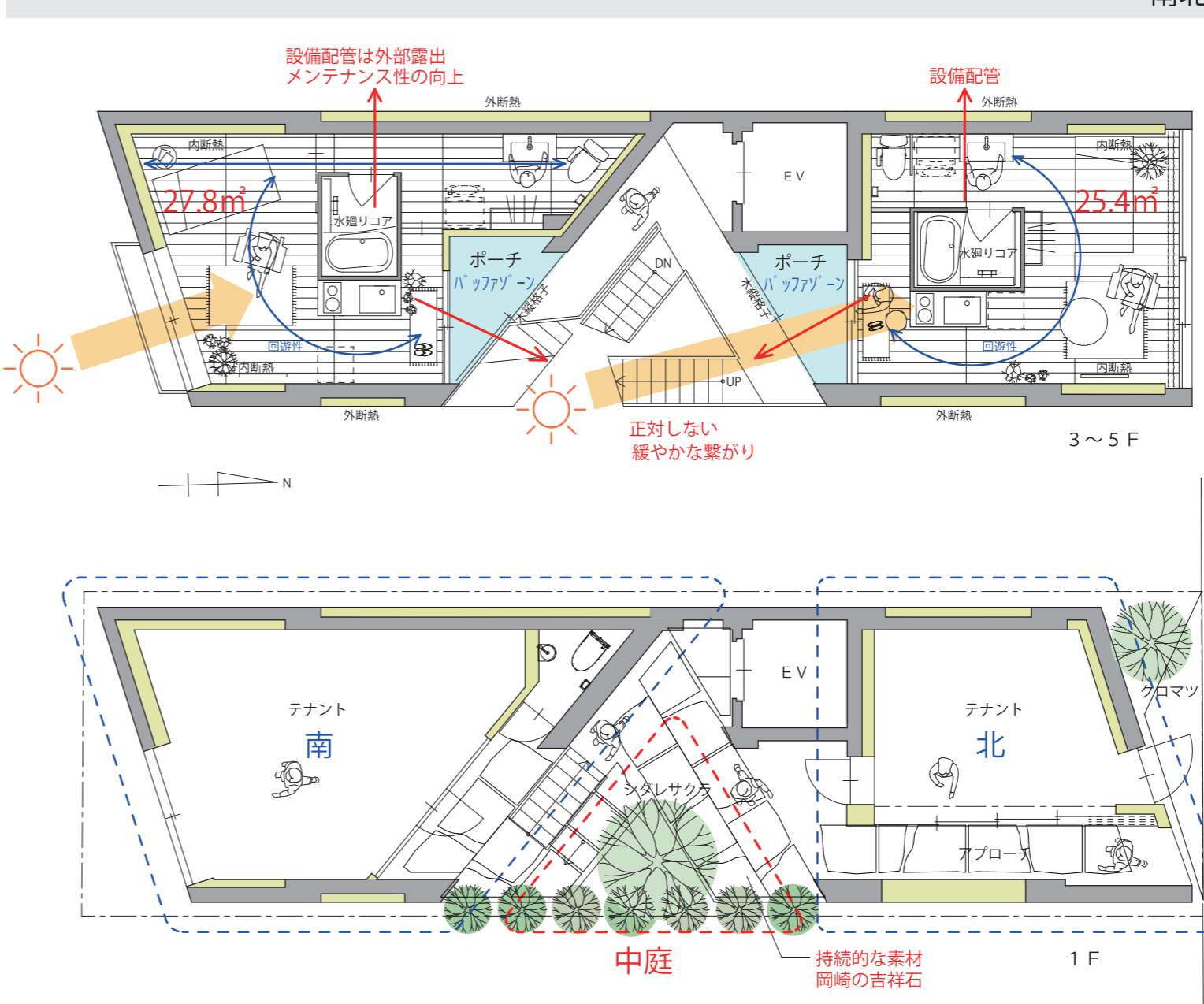
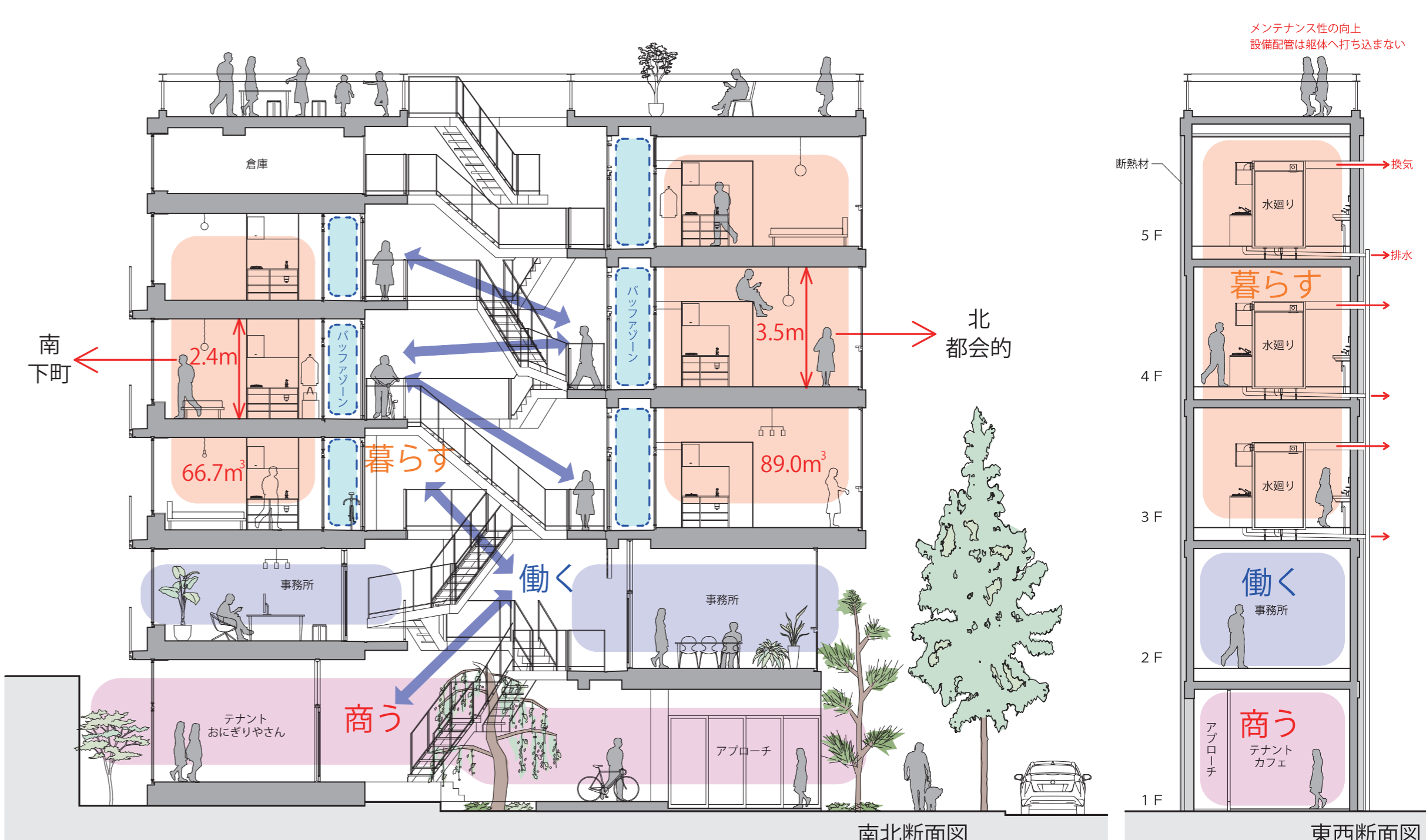
大池薬局ビル



暮らす・働く・商う ちょうどいい暮らしの提案
 場所は名古屋市中区千代田。鶴舞公園から徒歩7分、自転車を使えば大須や栄にもすぐの都会的な環境で最近ではママアツクな飲食店も増加していてクリエイティブな環境です。

街のHUB

大池薬局ビルは暮らす、働く、商う、が立体的に関係性をもって、街のハブになるような場所として建設しました。そのために、このビルに住む人たちのコミュニケーション装置として北と南のスキップする関係とV字に切り開く複雑な階段と中庭が緩やかに住人を繋ぎます。用途は1階テナント、2階事務所、3～5階住居の複合ビルです。



北と南の街と空間の形態

中庭を中心に北と南の2つのボリュームを設け、それぞれの地域の性格に合わせて計画しました。北棟は階高を大きくし、都会的な街に開かれた開放的な空間。南棟は一般的な階高とし、下町に開く緩やかな環境です。

V字に切り込んだ中庭

中庭をV字に切り込んだ理由は、北の部屋にも太陽の日差しを届けるためです。また、斜めの向き合い方は向かいの住人と正対することがないので緩やかな関係を生みます。切り込んだ部分に中庭と階段を設け、立体的な空間をつなげます。

多方向へ向かう階段 垂直方向の路地

多方向へ向かう階段は風景が常に変わる複雑な路地のような場所です。同一方向に回る移動手段でしかない階段とは異なり、様々な出会いを導く可能性が広がる。この複雑な階段は各階へのアプローチが多様なので室ごとに人と人の出会いが多彩である。

持続的な躯体とメンテナンス性

1階は地下ピットによる設備ルートを確保。上階の各室は床下スペースから西外壁側へ出し、露出配管とする。そのため室内は広くすることができ、メンテナンスは外壁とともに改修していく。また、水回りなどの間取り変更時にも対応できるよう配慮している。躯体のコンクリートの打ち直しは不具合も見つけやすい。

